

2012年（平成24年）2月6日（月）

朝日新聞



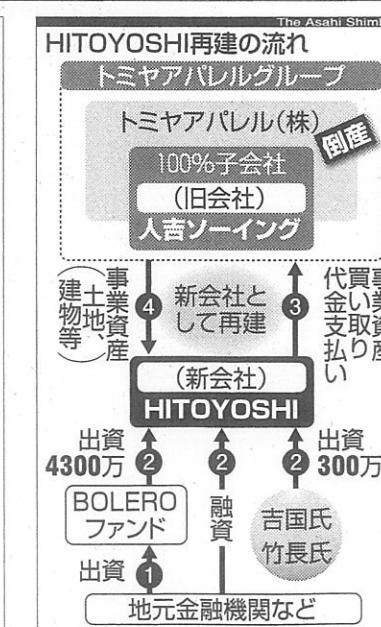
上 再建を果たし、従業員も大幅に増やす予定だ。熊本県人吉市の工場 下 吉国武社長（左）と竹長一幸工場長（右）。シャツの顔ともいえる襟型。数々の違いで表情が変わるという。阪急阪神百貨店提供

倒産寸前に追い込まれた織維業界の会社のスピード再建は異例だ。技術力が高かったことに加え、「ファンデや金融機関の連携、支援が大きかった」（高田千早・管財人代理）といふ。

しかし、何よりも、職人の地位向上を訴え、将来のビジョンを語り続

### 記者の視点

## こだわった職人の地位 信頼勝ち取る



けた吉國氏らの志が、仕入れ先などの関係者の共感を得、信頼を勝ち取ることにつながったのだ。自社ブランドの売上高はまだ2%。将来は30%に高めるのが目標。破綻かけた地方の一企業が、新しい形で再び世界につながろうとしている。

（編集委員・多賀谷克彦）

# 白シャツで起死回生

## 親会社が破綻 熊本の縫製会社

### 地域発 企業発 けいざい最前線

「阪急メンズ・トーキョー」のドレスシャツ売り場にならんだ「HITOYOSHI」

SHI」は襟の形、織り柄など10種あるが、色は白だけ。10月15日の開店日に300枚を用意したが、夕方には、欠品が出始めた。現在は、売り場販売数の4割を占め、販売実績は計画の3倍にのぼる。好調の理由は、ボタンは高級素材の白蝶貝、縫製は裏側に縫い目が出ない「巻き伏せ本縫い」という、生産へのこだわりと技術だ。

阪急に直接納め、アパレル特有の複雑な流通過程を経て、生産へこだわった。「巻き伏せ本縫い」という、生産へのこだわりと技術だ。

吉國氏は社長就任の直後から、事業計画書を手に仕入れ先を回った。生地屋、型紙屋……。同じものづくりをなりたいとする相手に「いいものを作れば、我々の表現力は消費者に伝わる。何よりも工場、職人の地位向上させたい」と説いて回った。

「現場の地位」にこだわったのには訳がある。吉國

省いて9975円（税込み）という価格を実現した。阪急阪神百貨店の小野洋平・紳士用品商品部長は「従来なら2万円相当。多くのお客様商品説明を聞き、ブランドは気にせず、納得して購入される」とい

昨年10月、東京・有楽町に改装オープンした百貨店に見慣れないブランドのシャツが並んだ。「HITOYOSHI」。一時は倒産寸前に追い込まれた熊本県人吉市の縫製会社を、役員らが自社株買い（MBO）をして立ち直らせた。「生産者の地位向上」への思いが再建を支えた。

## 役員、自社株買い再建

省いて9975円（税込み）という価格を実現した。阪急阪神百貨店の小野洋平・紳士用品商品部長は「従来なら2万円相当。多くのお客様商品説明を聞き、ブランドは気にせず、納得して購入される」とい

「HITOYOSHI」は社名もある。本社は球磨郡山都町にある。人吉市の中核である人吉市は、郊外にある。縫製技術の評価は高く、国内外の有名ブランドが生産を委託している。

しかし、2009年、多角化に失敗した親会社トミヤアパレルの破綻を機に、存じの危機に陥った。

「雇用と技術を継承した」とい。トミヤの営業企画担当者によると、従業員は155人。人口3万5千人の人吉市に100人超の事業所はほとんどない。

地域再生を掲げる福岡市のドーガン・インベストメントの「BOLERO（ボレロ）ファンド」が九州の地方銀行などから集めた資金4300万円を出資し、再建が始まった。

ただ、それだけでは工場の地位向上とはならない。阪急との取り組みは、初めての一歩だ。シャツに限らず、百貨店に並ぶ衣料品は、地元の在庫。百貨店は販売と同時に仕入れと売り上げを計上する「消化仕入」の仕組みだ。この商慣習では、HITOYOSHIは在庫リスクを負う。

吉國氏は、この見直しを提案。多段階の流通経路を省き、工場と売り場を直結した。さらに、阪急が在庫をもつように求め、新たなステップでの取り組みだ。この商慣習では、HITOYOSHIは在庫リスクを負う。

吉國氏は、この見直しを提案。多段階の流通経路を

## 百貨店直結 価格抑える

氏は30余年、シャツの企画に携わってきた。「30年前に280社あつたシャツメイカーズは今では三千数社。納品先からもっと早く、もうつとたくさんと言われ、多く

この会社は設備強化したが注文は長く続かなかつた」再スタート時、従業員は74人まで減らし、生産量も最盛期の半分、年12万枚に落ちた。しかし、技術力を

74人まで減らし、生産量も最盛期の半分、年12万枚に落ちた。しかし、技術力を

今年の生産目標は、本社工場23万枚、ベトナムの提携工場30万枚。売上高は前年比35%増の7億3千万円。従業員も120人まで増やす。将来の夢は、HITOYOSHIの独立店を開設。職人が来店客の前で袖丈を直す、前例のない工房一体型の店舗だ。

（編集委員・多賀谷克彦）